# ＜株式会社エフエム東京　第３３３回放送番組審議会＞

１．開催年月日：平成１８年９月５日（火）

２．開 催 場 所：エフエム東京　本社１０階大会議室

３．委員の出席：委員総数７名（社外７名　社内０名）

◇出席委員（７名）

子 安 美 知 子　委員長

青　池　愼　一　副委員長　　内　木　文　英　委員

香　山　リ　カ　委員　　横 森 美 奈 子　委員

渡　辺　貞　夫　委員　　内　館　牧　子　委員

◇欠席委員（０名）

４．番組試聴

【 番 組 名 】「SCHOOL OF LOCK!×Tapestry 連動特別企画」

【放送日時】　８月１４日（月）～１７日（木）放送分（ダイジェスト版）

【番組概要】

母親の子殺しや子供が親を殺すなどの事件が世間を賑わし、虐待や家庭内暴力、引き篭り等様々な社会問題を抱える現代において、TOKYO FMでは「SCHOOL OF LOCK！」に寄せられる10代の悩みの原因として、かねてから「親子関係」に注目、社会に問題提起を行う機会を探っていました。そこで、夏休みを迎えた8月に、親子で話し合えるきっかけを作るため、8月14日（月）と15日（火）の両日、「Tapestry」と「SCHOOL OF LOCK！」の2つの番組が連動し、夏休み特別プロジェクト“親子の見えざる壁～伝えたい、伝わらない～”を放送致しました。

〇8月14日(月)「SCHOOL OF LOCK！」

テーマ：“みんなの親問題～伝えたい、伝わらない～”（前編）

10代リスナーから、親に自分の事を伝えたいと思っているけど伝わらないというメッセージを募り、電話でリスナーとつなぎながら、届かない想いをテーマに放送。

↓

〇8月15日(火)「Tapestry」

テーマ：“親子の見えざる壁～伝えたい、伝わらない”

「SCHOOL OF LOCK！」のパーソナリティ・やましげ校長とやしろ教頭が生ゲスト出演。前夜の放送で集まった“子供たちの声”を番組で紹介、それに対する“親の側からの声”をリスナーから募った。

↓

〇8月15日(火)「SCHOOL OF LOCK！」

テーマ：“みんなの親問題～伝えたい、伝わらない～”　（後編）

“子供の叫び”“親の言い分”の両方を取り上げ、10代リスナーと共に“親子の壁”について考えた。

「SCHOOL OF LOCK！」では、パーソナリティとリスナー、そしてリスナーと全国のリスナーというトライアングルのコミュニケーションを創り出して来ました。それを、親世代をターゲットにした「Tapestry」と連動させることにより、さらに子供と親とのコミュニケーションへ拡大していくという、新たな循環を生み出しました。そこには、現在の親と子の希薄なコミュニケーションを放送とｗｅｂを通じて結んでいこうとする、強い社会との係わり合いがあり、感動と共感のネットワーク作りのひとつの姿を作ることができました。 今回の企画で「SCHOOL OF LOCK！」では過去最多となる１日で１２０万ＰＶを超えるアクセスを記録するなど、親子問題への関心の高さを示しました。

中でも、届いて掬い挙げられたメッセージだけでも、２００件を越える虐待、肉体的暴力の数々。母親から毎晩、腕に鉛筆を刺しつづけられてる少女。「死ね」「殺す」という罵声とともに、毎日のように殴られている少年。母親が子供を殺す事件の一歩手前が蔓延しておりました。

放送時間外でも、できるだけ電話をして、何人かのリスナーと話をしてみてのことですが、驚くべきことに、そんな子供の声は明るく、趣味もあり、夢もあり、学校や、近所では明るく笑顔でいる・・ということに気付かされました。そして、一番の望みは、「家族で仲良く暮したい。」ということでした。

＜試聴時間：約２８分＞

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側説明）

○ ぜひ続けてほしい番組。出演者たちの言葉使いがリスナーの子どもたちに親近感を感じさせているのだと思った。女性の先生もいるといいのかなと思った。

○ 取り上げるのに勇気がいる内容。学校教育は常識。この番組は常識を超えている、そこに価値があると思った。

○ 敢えて言えば、「絶対に生きている意味がある」など、きれいごとが少し気になった。中高生には伝わりにくいような抽象的な表現がところどころにあった。言葉が足りないような場面もあった。女性の先生がいればいいと思った。

○ どう受け止めればいいか分からない重い問題だった。そんな大変な場面に遭遇して、出演者の校長と教頭は良くがんばった。辛い立場に立たされ、精一杯の対応が伝わってきた。あの２人をスタッフは支えなければいけない。場合によっては不用意な発言もするかもしれないが、そこはスタッフのサポートがないと２人も受け止めきれないだろう。こんなに深刻な問題を突然突きつけられて、どうすればいいか分からなかったと思う。そこは、スタッフ全員で支えあいながら頑張っていってほしい。

○ ココロとか愛とかという言葉はこのような状況においては、意外なことに、子どもたちにとっては妙な現実的な言葉を言われるよりも安心感があってすがれるので、出演者たちがそういうことを言うことはいいなと思いながら聴いていた。ただ、これはラジオという領域を超えている。これがきっかけになり状況が変わればいいなと思う。また、親にネグレクトを受けている子どもたちは、学校でもいじめられるという傾向にある。学校の先生たちだけでは頑張りきれない部分もある。ラジオの領域を超えているとは思うが、これで随分救われることもある。ラジオはラジオのやり方で、これはできることの一つだと感じた。また、思ったのは、いつか親を出すことはできないか？自分が産んだ子をなぜいじめるのか？ぜひ聞いてほしい。

○ 前に試聴番組で聴いたときに、この番組は偶然の積み重ねでできている番組なので、やりすぎるとスタッフも出演者も燃え尽きてしまうので、早めにやめたほうがいいと発言したが、同じ心配がある。毎回このような重いテーマばかりではないと思うが、番組終了後に出演者やスタッフの人たちが吐き出し合う時間を持ってほしい。彼らのココロが燃え尽きてしまわないように気をつけてほしい。

○ よくここまで踏み込んでやれたなと思った。言葉を失う場面もあった。昔からリスナーとこのようなコミュニケーションはあったと思うが、一体この先どうなるんだろうと思ってしまうような、ラジオのコミュニケーションツールとしての違う方向性を感じた。これだけ反響があるということは、この番組の社会貢献的な意味がすごくあると感じた。良い形になっていってほしいと思った。

■ 心身ともにギリギリまで追い詰められた企画だった。大変なことが分かっていても、大物ゲストをとばして数字がとれなくても、それでもリスナーと話したい、と言ってくれた出演者とスタッフがいたから実現できたこと。スタッフは番組以外でもリスナーの子どもたちに電話をして話を聞いている。全員を助けることは不可能かもしれないが、勇気と行動でスタッフが一丸となり、みんなを助けられれば、という思いでリスナーと向き合っている。
　制作側もいろいろなことを考えさせられる番組だ。この国は平和な国だと言われているが、ココロがもっともっと豊かにならないかなと思ってやっている。

５．放送番組審議会の内容について
審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

６．公表
議事内容を以下の方法で公表した。
① 放　　送：番組「Heart Sharing」
　　９月２４日（日）　６：００～８：２５放送
② 書　　面：TOKYO　FM サービスセンターに据え置き

③ ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ：TOKYO　FM ホームページ内
http://www.tfm.co.jp

７．その他
次回審議会は１０月３日（火）に開催することを決めた。

以　上